



高原や
彩相い奏で
風薫る

松本
写伯

四季風韻 (拾八)

撮影 松本富美雄

目次

勿来九条の会 17 周年記念講演会記録

「歴史の中で戦争を考える」

—与謝野晶子、「昭和 16 年夏の敗戦」など

講師 伊東達也 3

リレートーク 防空壕のことなど (再録) 矢内あけみ 26

編集後記 28

伊東達也氏 プロフィール



宮城県大河原町で 1941（昭和 16）年
12 月 9 日に生まれる
（太平洋戦争の始まった翌日）。

平商教員（1964 年より 8 年間）、
市議員（1972 年より）
県議員（1991 年より）
議員活動（32 年間）。2003 年議員引退

以降 医療生協運動、原発問題運動、障がい者支援運動、憲法 9 条守る運動
などに関わる。

現在、原発問題住民運動全国連絡センター代表委員、全国革新懇代表世話人
原発事故からの復旧・復興を求める会代表、希望の杜福祉社会評議員
などを務める。



満席の講演会場（勿来市民会館大会議室）

「歴史の中で戦争を考える」

—与謝野晶子、「昭和 16 年夏の敗戦」など

講師 伊 東 達 也

(司会) 皆さんこんにちは。お忙しい中、そしてこんなに天気がいいなか、沢山の皆さんにお集まりいただきまして有難うございます。只今より勿来九条の会 17 周年記念講演会を始めます。私は司会・進行を務めます天野と申します。どうぞよろしくお願い致します。

初めに講演会実行委員会代表が挨拶致します。

櫛田正行さんお願い致します。

開会の挨拶

勿来九条の会講演会実行委員会代表 櫛 田 正 行



皆さんこんにちは。いいお天気の中にも拘らずと言っては変ですけど、まあとにかく行楽シーズンに入った中での講演会なので、いろいろとご都合があったかと思いますが、こんなに沢山お出でいただいて非常に喜んでおります。例年行っている講演会も今回は 15 回目になると思います、コロナで 2 年ほど休んだ時がありましたから。休まずに行なえば 17 回

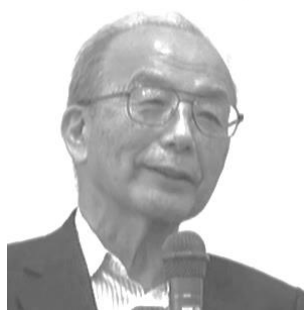
目ということになるんです。コロナも収まって来たので出来るようになって良かったなと思っています。ところで、いま沖縄の宮古島とか石垣島というところで、弾薬庫というのを作っているのです。私は最初弾薬庫と聞いた時、大砲の弾とか機関銃の弾とか、そういうのを保管しておく場なのかなと思ったらそうでは無いんですね。ミサイルを保管する建物なんです。日本はもともと長いこと専守防衛—攻め込まれて来た時は対応します。他には出て行って戦争することはありませんということが政府の見解でしたが安倍さんの時変わったんですね。特に中国が力を持つようになって、台湾問題が日本を戦争に巻き込むかどうかというこのポイントになってしまいました。

そういうことでミサイルをどんどん買い込んできています。それから特車というのを聞いた時ありませんか。自衛隊で特車というのは戦車のことなんです。自衛隊が戦車を持ち始めた頃は自衛隊は軍隊ではないという見解の時代でしたから、自衛隊が戦車を持つことはまずいですよね。そこで特車と呼んだのです。どうして特車と呼ばなくてはならなかったかと言うと、憲法9条があったからです。憲法9条があるのに戦争の準備をするというのはまずい話ですから、そこで名前を変えて戦車を持ったのです。我国が今まで戦争をせずに来れたのは、9条が大きく働いてくれたからですね。9条を守ることによって外国と戦争をすることが無かったのですが、状況を見ておりますと何か戦争をするのが当たり前みたいな風潮が強くなってきています。私達としては過去をよく見て、先を展望したいと思うわけです。今日の伊東先生の話はこう言ったことについてではないかなと、私なりに推測しているんですけども、よく聞いてこれから先の平和のために活かしてもらえれば有難いと思っております。これで私のあいさつを終わります。

(司会) 次に来賓の挨拶をいただきます。福島県九条の会代表で元福島大学学長であられました今野順夫先生にお出でいただいております。今野先生どうぞよろしくお願い致します。

来賓あいさつ

福島県九条の会共同代表 今野順夫



県九条の会の今野と申します。県九条の会は皆さんと大体同じなんですが、約20年前に創設されました。私の前任者、先輩でもあります、吉原先生が17年位やっていたのですが、残念ながら2年前だったか亡くなられたので、引き継いでやっております。福島県九条の会と言っても上下関係があるわけではなく、皆さんのところの九条の会と全く同等で、ただ県全体のことを考えてやるということで、

県内には約100の九条の会があるはずなのですが、実際に活動しているのはそんなに多くはないので、一緒になってやるということで、出来れば県全体で大きなことをと、コロナの時は駄目だったんですが、昨年ようやく8月に郡山で

やりまして、700 人が集まりました。沢山集まると皆さん力が湧いてくるのか、今年はそれぞれのところで 5 月 3 日が取り組まれています。県内ではパツとしないということなのか、蓬莱団地の九条の会（福島市）はバスを仕立てて東京の集会に行くと言ってますが、やはり地元のことを大切にしたい方がいいと思います。それはそれとして、ここに来るのはこれで 3 回目になります。宮城県では金華山には 3 度行かないと駄目だと言いますが、勿来九条の会にも 3 度目なんですが、非常に毎回積極的で、100 人以上が集まるというのは、県内でも先頭切っているという感じが致します。2, 3 日前に福島市内の笹谷九条の会という小さな住宅地にあるんですが、そこで 30 分だけ話をしろと言われて、まあ 40 分ぐらいになったんですが、話し合いだけでは駄目だということで、中村哲の映画を見て平和のことを考えるという集まりでした。あの人は国会に呼ばれて、日本は九条があって国際的な活動がしやすい、パレスチナで活動している人から聞くと、日本というのは軍隊を持たないんだよねということで、極めて信頼されていた、ところが最近になってアメリカと同じようになってきたので、日本人も例外ではないということになっているようです。日本には九条があったということが、平和を保持出来たんだと思います。例えば隣の韓国はベトナム戦争の時アメリカに言われて、数万人出しました。5,000 人の韓国人が犠牲になり亡くなっておりますし、ベトナムの中で韓国軍が虐殺をやってるんですね。最近北朝鮮の軍隊がウクライナにどうのこうのありますけれど、日本はそういうことを一切しないということで尊敬されてきたわけですが、次第次第に軍事費は大きくなり、大変な状態になり、官邸の話でやっていたら軍事費を 3 倍にしろという話になって、トランプからアメリカは日本を守るが日本はアメリカを守らないと言われて。守っていてくれるのかどうかよく解らないのですけれども、言わば一緒に戦いに行かせようとしているのではないかと。沖縄の人達の苦しみを見ると大変です。安保条約も止めて、日本は国際的に平和の先頭に立つべきだと思うのですが、なかなか出来ない。自民党の総裁選挙をすると、必ず任期中に憲法改正をしますと言うんですね、憲法改正を言わないと駄目なんですね。その前提になっているのは、アメリカに押し付けられた憲法なんだということなんですが、そこをだんだん九条についても検討して

みると、幣原さんという人（幣原喜重郎＝GHQ 占領期の総理大臣）が、マッカーサーに九条というか、平和主義、戦争放棄、軍備を持たないということをやるべきだということを言って、ただ日本の国内から出すのは非常に難しいので、アメリカから言われたことにしてくれ、ちょっと変な話ですけどもそんな形でなっているんですが、それを押しつけ憲法だから何とか止めたいということで、自主憲法を自民党総裁の前提にしているんですね。1955 年に自由党と民主党が合併しましたが、一番の重要なことは憲法を変えるということが自民党の役割なんですね。それが未だ実現していない、石破さんも最初は支持が上がっていてもすぐ下がってしまう。こういうことで是非私達は九条を守って行きたい。

最近若い人が保守的になってきてるんじゃないかということがあったりして、私もラインを使って皆さんに憲法塾というのをやっているんですが、高校生も含めて国民の若い世代に活動に移そうとか、私の所の事務局は最も若い人で 70 なんですよね。それじゃ駄目だということで、40、50 代だけではなくて高校生あたりも含めて一緒にやろうということでなくては駄目だと思っています。そういう意味では皆さんのずうっと続けてこられた集会を更に続けて広げて頑張って行ってもらいたいと思います。まあ私も勉強に来たのですが、突然来賓にされてしまいましたので、申し訳ないですが一緒に勉強したいと思います。どうも有難うございました。

（司会） 今野順夫先生でした。どうも有難うございました。



次に本日の講師の伊東達也さんを紹介いたします。講演は「歴史の中で戦争を考えるー与謝野晶子、『昭和 16 年夏の敗戦』など」と題しましてお話をいただきます。講演時間は約 60 分の予定です。なお、お話の中で与謝野晶子の詩「君死にたまふことなかれ」を勿来にお住いの吉岡玲子さんが朗読してくださいます。どうぞよろしくお願い致します。それでは伊東達也さんよろしくお願い致します。

講演 「歴史の中で戦争を考える」

—与謝野晶子、「昭和 16 年夏の敗戦」など

講師 伊東達也

伊東達也です。座って今日はお話をさせていただきます。私は最近ですが、二つの出来事に大変驚いております。

一つは消費税の減税を言っているのは少数の野党でしたが、野党みんなが言い出したんですね。大変な変わり方だな、潮目が変わりつつあるなど感じております。もう一つは今日お話することに関係してくるんですけれども、直近の世論調査なんです。2日前の4月27日の朝日新聞のトップニュースなんです。その右下の所を見ていただくと、日本外交は米国にどう対応の質問に、なるべく従った方がよいが24%、なるべく自立した方がよいが68%。圧倒的な差がついたんですね。その下、いざという時に米国は本気で日本を守ってくれる？に対して、本気で守ってくれるが15%、そうは思わないが77%。実に5倍の差なんです。減税と共にこうした点で潮目が変わるんじゃないか、というような思いです。こういうふうな中で、どうも変わらないのは、日本の戦争準備が着々と進められているということではないでしょうか。今年の3月24日に大きなニュースなんです。扱いが小さかったですね。自衛隊に統合戦司令部というのをつくることが発表されました。この統合戦司令部というのは、これまで自衛隊は陸海空3つですね。これはみんな司令部が違っていたんです。陸上自衛隊は埼玉県の朝霞市です。海上自衛隊の司令部があるのは神奈川県横須賀市です。航空自衛隊が司令部を置いているのは東京都横田です。これを統合して統合戦司令部というのをつくった。その本部は新宿区の市ヶ谷、防衛庁のあるところ。この司令部は何するのかというと、自衛隊が新しく作る統合戦司令部ということと、アメリカの在日米軍のトップがカウンターパートになる。すなわち連携して一緒にやりましょうよということが発表になったんです。一方日本側では九



州の熊本県と大分県に、長距離、射程距離 1,000km 以上、だから中国本土がほぼ入ってしまうんですが、長距離ミサイル配備計画をたてて、政府としては沖縄の先島諸島、最も台湾に近い所ですね。この諸島の 5 つの町は、宮古島市、石垣市、武富町、与那国町、多良間村の人口 11 万人と観光客 1 万人を避難させる計画を発表して訓練をしたいということを言い出しました。これに対し日本平和委員会は 4 月 13 日にとんでもないことだということで、戦争の拠点にするな、平和の拠点にしろと全国の市町村に呼びかけました。きわめて大きな変化が今生れようとしています。こうしたことを念頭において、今日話をしたいと思います。

一つ目の話題は「与謝野晶子」のことですが、私の誕生日が、紹介されたように太平洋戦争が始まった次の日なんです。だから私は子供の時から親、兄弟姉妹から何かにつけて「達也は戦争が始まった次の日に生れたんだ」と言われるんですね。だから意識せざるを得ないんです。毎年言われると 4 つか 5 つの頃から私の頭にこびりついてきました。私は与謝野晶子の詩や論文を読んではいたのですが、ある時平凡社の歴史辞典で与謝野晶子のところを開いたら、1878 年生まれ 1942 年没と出ていたのです。その時あれっ俺が 1941 年に生れた時にこの人は生きていたんだ、と思った時から大変親近感を持ちました。そうなんだ、俺はこの世の中に与謝野晶子と同じ時代に生きていたんだと。近現代史ををみる時は兄貴の誕生日はこう、父親の誕生日は明治 33 年など、大体何かあると近現代史のことはああこれは父親の生まれる前の事だなどか、一番上の長男の生まれた年だなどか、そういうのが私の癖で、与謝野晶子をそういう目で見えるようになって来たんです。さてこのレジメに書いてあるように 2025 年は戦争終って 80 年ですね。戦争しなかった 80 年でもありますね。1945 年 8 月の前は 1868 年、明治の初めから 77 年間は植民地支配の対外戦争をずうっと繰り返した時代でした。そんな中 1904 年、明治 37 年、26 歳の与謝野晶子は「君死にたまふことなかれ」を「明星」という本に書いたんです。この頃 2 歳年下の弟が日露戦争の旅順口包囲戦に出兵していた時なんです。あの有名な詩は、何を訴える詩なのか、今日は吉岡玲子さんに朗読をお願いします。

「君死にたまふことなかれ」

一旅順口包囲軍の中に在る弟を歎きて



吉岡玲子さん

与謝野晶子

あゝをとうとよ、君を泣く、
末に生れし君なれば
親は刃（やいば）をにぎらせて
人を殺して死ねよとて

堺（さかひ）の街のあきびとの
親の名を継ぐ君なれば、
旅順の城はほろぶとも、
君は知らじな、あきびとの

君死にたまふことなかれ、
おほみづからは出でまさね、
獣（けもの）の道に死ねよとは、
大みこゝろの深ければ

あゝをとうとよ、戦ひに
すぎにし秋を父ぎみに
なげきの中に、いたましく
安（やす）しと聞ける大御代も

暖簾（のれん）のかげに伏して泣く
君わするや、思へるや、
少女ごころを思ひみよ、
あゝまた誰をたのむべき、

君死にたまふことなかれ、
親のなさはまさりしも、
人を殺せとをしへしや、
二十四までをそだてしや。

旧家（きうか）をほこるあるじにて
君死にたまふことなかれ、
ほろびずとても、何事ぞ、
家のおきてに無かりけり。

すめらみことは、戦ひに
かたみに人の血を流し、
死ぬるを人のほまれとは、
もとよりいかで思（おぼ）されむ。

君死にたまふことなかれ、
おくれたまへる母ぎみは、
わが子を召され、家を守（も）り、
母のしら髪はまさりぬる。

あえかにわかき新妻（にひづま）を、
十月（とつき）も添はでわかれたる
この世ひとりの君ならで
君死にたまふことなかれ。

吉岡さん朗読ありがとうございました。

涙なしには聞けないですね。この詩に有名な歌人であり文芸評論家であった大町桂月という人がいたんですが、「家が大事也、妻が大事也、国は亡びてもよし、商人は戦ふべきぎむなし」「あまりにも大胆すぎる言葉」などと批判するんです。これに対して晶子は「桂月様たいさう危険なる思想と仰せられ候へど、当節のやうに死ねよ死ねよと申し候ことまたなにごとにも忠君愛国の文字や、畏れおほき教育勅語などを引いて論ずることの流行は、この方かへって危険と申すものに候はずや」と非難した。桂月はずっと過激に「皇室中心主義の眼を以って、晶子の詩を検すれば、乱臣賊子なり、国家の刑罰を加ふべき罪人なりと絶叫せざるを得ざるものなり」と激しく批判しているんです。以後晶子はこの論争に怯まないで何度も闘い続けています。更にその後この与謝野晶子は男女平等や婦人参政権などに国民に熱心に評論を通じて呼びかけています。今から何十年も昔のことです。こういう時代に全力で評論を続けるんです。全集に目を通すと分かるんですが何千句、何万の歌で出てきますが、ほとんどのページは評論ですね。新聞にいっぱい投稿していますし、新聞を通じて女性の自立はいかにあるべきかと果敢に訴え続けているんです。そういうことがやがて 1921 年に国の学校令に依らない、独創的な教育を目指す学校「文化学院」というものを同志と共につくっています。「文化学院」の卒業生を調べてみると、かなりユニークな人をいっぱい輩出されているんです。彼女は実践もしているんです。言論だけではなくたんです。1990 年、晩年の昭和 15 年 2 月 11 日、全国 11 万ある神社の、紀元二六〇〇年という、国の大きな祭りを政府がやりました。日本が国として生まれたのが紀元、というのは当時日本が生まれたのは今でいう BC（キリスト誕生以前）660 年のことなんです。まだ階級社会に入っていない縄文時代なんです。そんな頃に日本は国を作りましたよ、これを祝うという私が生まれる一年前に大きなお祭りをやっているんです。この時に与謝野晶子はどういう歌を歌ったのか。

我が国の二千六百年春秋のまばゆき花を誇らざらめや

戦勝ち春のよろこび湧く国土しろしめたる君はめでたし

君は天皇のことです。「君死にたまふことなかれ」と真逆のことを彼女は後世に残しているのです。晶子は日本敗戦の3年前の、1942年、昭和17年5月に満63歳で亡くなっているのです。この晶子の歌を私は戦争は国の方針に逆らう思想を許さなかった、晶子をして天皇陛下万歳だと言わしめる。と言うしかない、後で見る山代吉宗のように生きることさえ許さないのが戦争だということを私は思うのであります。

二つ目の話題です。「昭和16年夏の敗戦」のことと書きましたけれど、これは本の題名から取ったものです。1941年昭和16年4月1日、今から84年前のことです。真珠湾攻撃の7か月前のことです。この昭和16年4月1日、若き官僚27名、軍隊の席をもつ者も5名いましたが、民間人8名の総勢35名なんです。今でいう大学院大学ともいべき総合戦研究所というのが作られて、入所するんですね。この研究所は内閣総理大臣直轄の研究所、教育機関でありました。これ等研究生は演練といって、実際にそのことをやってみたり、訓練したりして身につけることですが、日米開戦を想定して、総力戦研究机上演習、今でいうシュミレーションをするんです。そのために模擬内閣をつくって皆が大臣になるんです。その模擬内閣となった研究生は、昭和16年7月から8月にかけて、軍事・外交・経済の具体的な兵器増産の見通し、食料、燃料の自給度や運送経路、同盟国との連携、などについて各種データを分析し、日米戦争の展開を予測したものでありました。その結果全員の結論が、つまり閣議の決定は「開戦後緒戦の勝利は見込めるが、その後の推移は長期戦となり、その負担に日本の国力は耐えられない。戦争末期にはソ連の参戦もあり敗北は避けられない」という結論になったんです。当時の若き官僚達は自ら大臣になって議論の結果、開戦となれば日本は敗けると、そういう結論を出すんです。これを猪瀬という人が「昭和16年夏の敗戦」と名付けて本を出しているわけですが、以上の研究結果は、8月の27、28日に首相官邸で開催された「第一回総力戦机上実習総合研究会」において、当時の首相近衛文麿や陸相東条英機など政府、統帥部関係者に報告されたのです。対米開戦の3か月前のことだったんです。しかしその後首相となった東条英機は12月8日、つまり「敗戦必至」だと若

き官僚たちが結論を出した3か月後なんです。米国の真珠湾とマレーのコタバル攻撃をおこなって、米英との戦争が始まったのです。その戦争が1945年昭和20年8月15日まで続いたのです。その後実際の戦争を見てみると、大筋研究の通りになっているんですね。違っているのは原爆投下だったんです。研究生たちは原爆が投下されるとは知らなかったんですね。この太平洋戦争で日本が侵略した国での死者は、中国人約1000万人。フィリピン約100万人、朝鮮約20万人、ただ朝鮮は直接日本が植民地にしましたので、労働者として約112万人を連れて来ました。この常磐炭砒にもいっぱい働かされました。このようなとんでもない死者を日本が侵略した国々で生みだしてしまったのです。日本の死者はどうかというと、軍人・軍属で155万5,000人いる、一般国民167万人余、合わせて321万3,903人が確認されております。確認ですが30万人ではありません、300万人の国民が命を落とすんです。どう考えたらいいいんでしょう。まじめに研究した結果が日本は敗けると言っている、国は、当時の指導者は戦争に突入した、私はここに戦争というものは、国民と一緒にやるべしとなったら、ブレーキが利かないんだということを示しているのではないのかと思わざるを得ないんです。実際やってみなくては分からないでしょうと言われる、それまでです。実際東條はそういう風に言っているんです。この場に臨んで実際やりもしないで、何だそんなふざけたことがあるかと、こういう態度をとるんですね。だから戦争しようという風に考えている。それを後押しする国民がいれば、もう止めきれないんだということであるんだと思うのです。

三つ目の話題です。山代吉宗のことです。いわき市内には地域の事象を共に学び伝える「いわき地域学会」というのが、長らく貴重な活動をしております。その地域学会が1992年、平成4年に「いわきの人物誌（上）」を発行しております。序文は当時の市長岩城光英さんが書いています。この本の中では25人の人たちを紹介しているのですが、その中のひとりに山代吉宗がいるんです。今日をご存知の方もいっぱいいると思いますが、別刷りの資料をちょっと見て下さい。山代吉宗、労働運動家1901年、明治34年生まれです。1945年、昭和20年没なんです。資料の一部を読みます。

「山代吉宗はこのような時代背景の中で明治 24 年（1901 年）7 月 7 日石城郡磐崎村字町田に、磐城炭砒町田坑飯場頭・山代広次郎と妻クニの長男として生まれました。吉宗が 7 才の時に父母が離別したため祖父の家に預けられ、10 才の時に小野田坑に移っていた父のもとに戻り、12 才の時に県立磐城中学校に入学しました。16 才の時に父が病死したため、須賀川にすんでいた母に相談したところ、母に「学問は若いうちでないとできないから、大学さ行け。」といわれ、吉宗は、明治大学専門部政治経済学科に入学しました。この大学進学が、その後の吉宗の生涯を決定する大きな転機となったのです。在学中に友愛会の本部直属の会員となり、3 年後の大正 11 年に大学を卒業すると帰郷し、亡父の後を継いで小野田坑の飯場頭となりました。吉宗は、借金で首のまわらぬ坑夫たちをよんで、女遊びや博打をやめろと意見し、借金を棒引きし、飯場のピンハネ率も半分にしました。また、長屋の子供を集めて、算術や国語を教え、菓子配って紙芝居を見せたり、お話をきかせたりしてやりました。（途中を省略して、、、）大正 14 年(1925)、日本の近代史上特記すべき重要な法案が成立します。一つは、納税額の制限をなくし、25 才以上の男子に選挙権を認めた普通選挙法です。二つは、国体や私有財産制度の変革を目的とする結社や運動を禁止するために制定された、自由な言動・行動を抑圧する治安維持法でした。山代吉宗の労働運動の出発は、ほぼこの時期でした。以後、吉宗は労働者の生活向上と権利の獲得を目指し、治安維持法に抵抗する強い信念と行動を生涯貫き通すこととなります。（途中を省略して、、、）これにより、吉宗は表面から労働運動を推進する道を断念させられ、地下活動・法廷闘争・獄中闘争の道をくり返しながら、労働者の生活向上と日本共産党の再建のために、その一生をささげることとなります。昭和 4 年 1 月 16 日、吉宗は共産党党员の一斉検挙により、日立で捕らえられ、控訴し法廷で闘いましたが、昭和 6 年に懲役 6 年の刑が確定し、豊多摩・千葉・秋田の刑務所に入れられます。昭和 10 年 2 月に、刑期を満了し出所、秋田から常磐に帰りましたが、すぐさま京浜地方の地下活動に入りました。そうした中、昭和 13 年 4 月、吉宗が 36 才の時に徳毛巴と結婚したのです。巴は広島県三次町出身で、上京して美術学校で学び、東京板橋で、女子工員たちの勉強会を開いていた時に吉宗と出会いました。吉宗の

人並みの家庭生活は、わずか2年しか続きませんでした。昭和15年5月、治安維持法違反で検挙され、2人はふたたび会うことはありませんでした。吉宗は東京市赤坂警察署、巣鴨刑務所を経て、やがて広島刑務所へ送られました。そして、昭和20年（1945）1月14日、吉宗は44才の短い生涯を閉じたのでした。遺骨は、島根県邇摩郡大森町、極楽寺に葬られました。吉宗は、死の4日前に、和歌山で入獄中の妻に「もうすぐ春だ。時は必ず春をもたらす。元気で元気で、春を待とう。」と手紙を出していました。同年、8月6日広島に原子爆弾が投下され、8月15日に日本は敗戦を迎えました。吉宗の望んでいた春はついに来たのです。そしてその年の12月に日本共産党は再建されたのでした。激しい闘争をくり返しながら共産党の再建を夢見ていた吉宗が、この日まで生きていたら、彼はどんなに喜んだことでしょう。」（引用いわき地域学会発行「いわきの人物誌」より）

というふうに地域学会がまとめてくれています。この山代吉宗の生涯を、遺されていた沢山の資料を発掘して読取り、また関係者に聞き取りを行い「光と風の流れ」という本を後世に残した人がおりました。かつて、いわき市内の高校で教鞭をとられていた呑川泰司さんという方です。山代吉宗の最後を描いたこの本の一節を紹介します。

「山代吉宗のなきがらのようすについては、山代巴が書いている。徳毛宣策（巴の弟）は、この「死体面会」の手つだいに来た雑役の囚人に、死ぬまえの山代の事を聞いた。「病舎に移ったのは昭和19年の夏だったろうか。体が悪いので仕事ができにくくて、封筒はりをしていたが、さっぱり能率が上がらなかった。本は読んでいた。痔が痛いと訴えていた。1月14日朝、呼んでも起きないので看守に連絡して房を開けて入ってみたら、死んでいた」という答えだった。徳毛は病舎に案内させた。明治時代に建てた厚い木の格子の間から風が吹き込んでいた。山代の入っていたという隣の囚人に聞いた。「病人だからといって、当局は何もしてくれません。入れっぱなしです。死なれた方はおとなしい人でした。私は病舎に入ってまだ間が無いのであまり話したこともなく、よう知りません」といった。徳毛が死体安置所にもどると、鉄扉のあいだから吹き込む雪は、山代の痩せた体に静かに積もっていた。空洞になった眼窩に、雪がたまる。」

戦争する国は、体をはって反対する人を残酷な仕打ちをもって生かしてはなかったのです。この治安維持法による弾圧で逮捕・送検された人は7万5681人まで分っています。うち命を落とした人は1682人でした。ほとんどが暴力を振るわれて虐殺されています。福島県内の逮捕者は56名まで分かっています。そのうちいわき地方では12名判明しています。吉田寛一四倉のお医者さんの息子さん、新田目直寿一新田目病院をつくった人達の先祖、吉田サタさん一いわき母親の会の実行委員長、幼稚園長ですね、松永クニさん、草野茂さん一小川町の米穀商一数少ない戦後の共産党の町会議員でしたね。これらの人は「民主先駆の碑」というのを作って、湯の岳の麓に顕彰されています。こういう歴史を経ておりました。

最後の話題は原発をもつ日本が戦争することについてであります。

福島原発事故から14年たっても、福島県民は苦しみ続けられています。12町村に及んだ強制避難の区域、ここは今でも5万4000人余が避難したままです。ところが国は復興庁発表で2万5000人余としています。半分にもならないんです。本当に国の対応は酷いです。いわき市では1万7000人住んでいます。ところが復興庁では0人としています。自分で住宅を確保した人や復興公営住宅などに入っている人などを避難者に含めず、避難者はいない事になっています。だから2万5000人になっちゃうんです。こういうとんでもないことを国はやっております。

福島県全体の産業も戻っておりません。この前新潟に呼ばれて、柏崎・刈羽原発の再稼働は県民投票で決めようとしているところで驚かれたのは、13年後の12市町村の稲の収穫、双葉町は0%、隣の大熊町が4%でしたか、この事実を知って新潟の農民は怒り狂っていました。新潟で同じような事故があったら、ササニシキも、米で日本一だなんていうことも夢のあなたにされると言っておりました。福島県はそういうことをやっちゃったんですよ。避難者の4割がPTSD（心的ストレス障害）で苦しんでいる。甲状腺がんは300人を超す人が悩み苦しんでいます。そして廃炉終了の見通しは全くたっておりません。原発推進の学者がつくっている学会の「日本原子力学会」はどんなに早くとも

100 年間と言ってます。さらに岩盤まで汚染されていて本当なら岩盤まで取り換えなければならない。それをやるならさらに 200 年、300 年かかる。数世紀にわたる被害なのです。取り返しがつかないんです。原発事故はこれだけのとんでもない苦しみをもたらすんですが、そこに戦争で原発がロケット弾なんかが撃ち込まれたらどうなるんですか。日本には研究炉、実験炉を含め太平洋岸、日本海沿岸に約 60 基の原子力施設があるんです。この一つでもロケットでやられるなら、事故が起こったと似たような状態になるのです。あのウクライナのザポリージャ原発はロシアが占領しましたが、なぜあそこで戦闘をやらないのか、やれないのです。あそこでやったら管理する人がいなくなるんです。一巻の終わりです。放っておけば冷やすことが出来ないで爆発します。だからあそこは戦場に出来ないんです。そんなこと国は分っているはずです。相手がロケットを打ったら間髪を入れずに日本も相手を叩くなんてやったら最後、どちらかが相手の急所をねらうとなったらどうなりますか。相手の国が国民の命を守るのが最優先だ、その為には戦争を一瞬のうちに終わらせよう、当然そういう論理が生まれるでしょう。なんでそんなことなのに戦争準備をするんですか。そんなことが分っているのに「戦争など、そんな馬鹿なことが起こるわけは無い」と言えないのが今の実情ではないでしょうか。

軍隊を持つことは普通の国だと、自衛隊を軍隊として一層強くする人々が「9 条を守れと、そんなことはお花畑の発想でしょう」と冷笑するわけなのです。せせら笑うんです。「やっぱり核抑止力は必要でしょう、核をもった方が戦争を起こさない」という論理が正しかったら、全世界の国々が核兵器をもったらどうなるんですか。そんなことが必要なんですか。武力には武力で戦争は防げる、そんな初歩の初歩のことを政治家は理解しようとしな。こんな馬鹿なことがありますか。憲法 9 条を改定せずに 80 年間続いたのは、今後とも絶対戦争はしないということで、私ども頑張る必要がますます大切になっていると思います。

先月だったでしょうか、私は雑魚塾（フォークソンググループ）が笠木透を忍ぶコンサートを小名浜公民館でやったんですね。夫婦で聴きに行ったんですが、いつになく落ち着いて歌を楽しむことが出来たんですが、その中に「軟弱者」という歌詞に、久しぶりにこういう覚悟大切だな、先人はこういうことを

歌にまでしてくれたという思いで、CD まで買ってきました。今日はその「軟弱者」という曲を聴いていただきたいと用意していただきました。

「軟弱者」 （詩：笠木透／曲：増田康記）

この国を守るために 軍隊がなくてはならないとしたら
軍隊がなくては滅びて行くとしたら 滅びて行こうではないか
私たちは どんなことがあっても 戦力は持たない
私たちは 何と言われようと 戦争はしない

この国を守るために 核兵器がなくてはならないとしたら
核兵器がなくては滅びて行くとしたら 滅びて行こうではないか
私たちは どんなことがあっても 戦力は持たない
私たちは 何と言われようと 戦争はしない

軟弱者と笑うがいい 非暴力で滅びた国があったと
無抵抗で滅びた 人々がいたと おろかにも滅びていったと
私たちは どんなことがあっても 戦力は持たない
私たちは 何と言われようと 戦争はしない

この国を守るために 戦争をしなければ ならないとしたら
戦争をしなければ 滅びて行くとしたら 滅びて行こうではないか
私たちは どんなことがあっても 戦力は持たない
私たちは 何と言われようと 戦争はしない

以上をもちまして私の講演を終わりとします。最後までお聴き取りいただき
て有難うございました。

質疑応答

司会 ではこれより質疑応答に入ります。講演内容やその他伊東先生にお尋ねしたいことがありましたらどうぞお手を上げてください。



質問 「軟弱者」聴かせていただいて大変感動しました。この曲を選ばれた先生の本音のお気持ちを、もう一度皆さんに伝えていただければと思います。よろしくお願いします。

伊東 ストレートに答えないですみません。話の途中で思い浮かんでお話しできなかったこととつながるんですが、私にとって敗戦

は昭和 23 年の冬の敗戦なんです。なぜかと言うと昭和 23 年の 11 月末の本当に寒い日でしたが、兄貴が戦争から帰ってくることになったんです。大河原駅前に家族みんなで迎えに行きました。私にとっては生まれたときから会ったことがないわけなんです。ただ兄弟、親からもう一人兄貴が居るんだよと言われてはいました。それは判っているんですが実感がいいわけなんです。それで駅頭で会いました。背が大きいのにまずびっくり仰天しました。一番驚いたのはガリガリに痩せて、目が落ちくぼんでいるんです。その目がギラギラに光っていました。私は怖いな、明日から我が家に嵐が吹くんじゃないかと、子ども心の直感でした。本当にそうになりました。とくに酒を飲むと、父親は酒一滴も飲まないんですが、父親と口論になるんです、責めるんです。それがいやでいやで、家族みんな腫れ物に触るようなものです。何でこんなに父親をいじめなければならぬのか。私はもう本当に子供心に怒りました。兄弟なのに兄弟じゃないんです。和解するのはね、私が 22 歳の時なんです。大学に行ってシベリアに抑留されていた人たちがどんな捕虜生活をしてたかという事を学んで、だから兄貴はチャンコロのやつらロスケのやつらと、相手の国のことをすごい蔑視していたのか、それから政治のことになると「おこがましい」という言葉、私は小学 2 年生ですからよくわからなかったけど政治家不信なんですね。性格も荒れていました。私が勉強して分かって、兄貴がどういう風にしてああいう

風に父親に食ってかかる、世の中を冷めた目で見ると、政治家をバカ扱いする、絶対信用しない、そして言いたいことを言う。ああそういうことだったのか、まさに敗戦の悲劇なんですね。ようやくそういうことが分ってから兄貴と分かりあえたんだと思います。私が平商業高校に赴任する少し前に、ほとんど説明なしに仙台の一番町の有名なテーラーの仕立券を兄貴が私にくれて、これで服作れと渡してくれて、それで私は生まれて初めて上下のスーツを作って、それをもって平の駅に降り立ったんですよ。ああ良かった、和解できたと。自分にとってそういう風な本当に些細な個人的な感情なんですよ。ああ戦争というのはむごいもんだと、こんなふうに人を変えてしまうんだと典型のように思うんですね。そういう風に思うと、さきほどお話ししたようなことを私は言いたい。あの歌の中で言っていることにはいろんな異論もありますが、心構えとして私は同感なんですね。すみません、答えになっているかどうか。お許してください。

司会 その他に何か 伊東先生に伺いたいことや感想などございませんか。

質問 高橋と言います。80 歳になりましたが だいたいこの年代の人たちは戦争に関わる何かをお持ちではないでしょうか。私は「君死にたまふことなかれ・・・」6年生の時でしょうか暗唱させられました。本当に久しぶりにこの詩を聴きました。そして小学校6年生の時に教えてくれた先生を思い出しました。私の町は鉾山町で朝鮮の人それから中国人の労働者たちがいて、そして中国人労働者が逃げて捕らえられて、三日三晩共楽館という所で拷問されて半数が死んだ、そしてそれに加担した地域住民の人達、「俺は捕まえた」とかそういうことが戦後だれもそういう花岡事件というものがあったということは誰も一言も言わないで、中国の人達が来た時はじめて、私も中学一年の時何の事だったのかということを初めて知ったわけなんです。本当に戦争というのは考えられない、人を人と思わず殺さなければ殺されるという、そういう状況をつくりだしたわけなんですよ。それで今新聞を見るとなぜ軍事費があんなに増えていくのか、誰のために、そんなふうに思うと、とてもじゃない、いてもたってもなく思うわけです。それで新聞を見るといろんな事件が書かれていてど

ういう事なんだと思ってしまう様なそういう思いもします。そういう意味で今後私たちはどういう風に関りどんなふうに活動していったらいいのでしょうか先生教えて下さい。

伊東 もう答は出ていると思います。あえて言いません、皆で考えましょう。

司会 他にご質問はございませんか。

質問 溝口と言います。今高橋さんが 80 歳と言ったから 1944 年生まれなんでしょう。私は 1940 年、昭和 15 年生まれ、レジメに紀元節についての記事がありますけどもこの年に生れているんです。私は生れた年で分かる訳ないんですけれども、「紀元は 2600 年・・・」という歌を何回も聞かされてこの歌を忘れないんですが、この年に生まれた、私の同級生の名前に紀子、紀男とか紀元の紀という字のついた子がいっぱいいたんです。それだけ紀元の紀というの



が国中を覆っていた時代で、それだけ与謝野晶子も流されただろうなっているような気がします。「君死にたまふことなかれ」のような詩を作った人でもそうなんだなという事がしみじみわかりました。以上です。

司会 そのほかございませんか。

質問 失礼します。「軟弱者」という歌を聴きましたが、とても私はこういう事は我慢できないと思います。軟弱ではなくて優しい人間になったらいいかなと思うんですね。というのはトランプさんは自分の国を守るという風に言っているんです。あの方は家族もたくさんいて、家族も大切にしているんじゃないかなって思うんです。自分を守り家族を守り自分の国を守るというのが基本なんじゃないかなと、そして災害とか大変な国には手を差し延べる、自分にその余裕があったら手を差し延べる。そういう気持ちになったら戦争は起きない

んじゃないかなって思うんです。その調整は国連がしてくれると一番いいと思うんですけど、軟弱ではなく優しい人間になって、自分の周りの人、自分もですが大切にするっていうのが基本なんじゃないかな、そういう人間になっていけば、世界中の人がですね、戦争なんて起きないんじゃないかなって最近思っています。なんか質問じゃなく意見のようになってしまいましたが以上です。

伊東 あ軟弱者というのは、おそらくそういう風に言われる人が一番強いよということであえて使ったんだと思いますが、いま国際連合とかなんかでトランプが出てきてから容易ではないんですが、私たちは絶対ああいう姿勢に組してはならないと思うんですね。トランプ大統領のトランプはキングなんだと思いますね、無いのはハートじゃないですか。ハートは今言われたような優しさですね、相手のことも考えるね。やっぱりああいう指導者に日本が頭を下げて日本だけ特別扱いしてくださいよというのはダメだと思います。世界の平和のためにも日本が一定の影響を持つ国ですしね、ここは戦争しないで9条を守り抜いていくという事が世界の人々にとってもものすごく大きな力になるんじゃないでしょうか。次にノーベル平和賞をもらうならば憲法九条だと思うんですがいかがでしょうか。

司会 皆さん、いろいろご質問、ご意見有難うございました。伊東先生のパンフレットにもありますように、伊東先生のメッセージとして「戦争は突然おこるのはまれです。長い準備のもとに起こります。準備ができた時はもう止めることがきわめて困難になります。」とあります。今こそ歴史を振り返り、歴史に学び、戦争する国に向う動きに立ち向かい、平和をまもるための行動に立ち上がりましょう、ということが今日の伊東先生のメッセージだと思います。皆さんどうもありがとうございました。伊東先生長いお時間ありがとうございました。今日は大変いいお話をありがとうございました。 皆さんもう一度先生に大きな拍手をお願いいたします。

伊東達也先生、講演ありがとうございます。多面から教えられ感謝いたします。先生はお話の中で、「(現状の) 福島原発に核兵器でなくとも、ロケット弾一発でも命中すればそれこそ福島の命脈にとどめを刺すような事態となりかねない」と述べられました。私自身このことをずっと考え続けてきましたので、とても共感・共鳴しました。このことは過去数度、朝日新聞も警告してきたところです。日本が戦争することになれば、相手国は核兵器を用いずとも、ミサイルを福島原発や日本にある他の原発数基に打ち込めば、日本は壊滅・沈没してしまいます。勿論相手国も同じ道を辿ることになるでしょう。この危機は喫緊の課題であり、それだけに戦争することを阻止し、九条を守り抜くことが大切なのです。



もう一つ重大な危機は、事故を起こしたある格納容器を支える土台がかなり崩壊状態にあり、ある程度の地震で倒壊してしまうという危険です。このことも朝日新聞が警告していました。もし崩壊すれば福島だけでなく、近県を始め、東北、関東地方は直ちに避難しなければならなくなるでしょう。これも平和に対する脅威です。

「君死にたまふことなかれ」の詩についてはあまり知らず、与謝野晶子に関してもその生き方をよく知りませんでした。今回多くを教えられました。お話の中の「戦争は、国の方針に逆らう思想を許さないのである」との警告を重く受け止めました。山代吉宗さんのことは知りませんでした。今日は本も買ったので読んで彼の生き方を学びたいと思います。

近年、民主主義に対して権威主義が台頭してきて、世界のパワーバランスの変化が見られ、均衡が崩れつつあると言われています。特にアメリカ・第二期トランプ政権下においてその流れが顕著で、深刻化しているように思えます。アメリカファーストは自国第一主義で他国・世界を顧みず、その役割を放棄し、自国の利益だけを優先させる在り方です。このまま行けばパワー

バランスの均衡の変化はさらに広がり、権威主義がもっと頭をもたげてくるものと危惧されます。それに伴い、日本だけではなく EU 諸国においても軍事費の増額が叫ばれ顕著です。私たちはこのまま対立を見過ごし、戦争への準備を許してはならないと思います。

私は今回の講演会に出席し、改めて「憲法九条を死守すべし」と確信しました。これ以外に方策はなく、議論も必要ありません。もし九条の一点一画が崩れ始めたら日本及び世界は雪崩を打ったように戦争の道に入っていくことでしょう。九条を守り抜く以外に平和はありません。

現在、国会において、自民党・公明党・維新の会などによって「日本学術会議」の独立性の担保が脅かされ、その存立が骨抜きにされようとしています。戦前、日本学術会議は政府により太平洋戦争に協力させられました。その反省の元に 1949 年設立されました。自民・公明・維新の人たちはまた来た道に戻ろうとしているのでしょうか。

私たちはこれら日本・世界の情勢を見極めつつ、動じず、着実に、確信を持って九条を守り抜いていく「勿来九条の会」でありたいと強く心から願います。

（司会） 住吉先生どうも有難うございました。以上をもちまして講演会を終了いたします。皆さんありがとうございました。

参加者アンケートに寄せられた感想など （講演会実行委員会より）

多くの方から感想を寄せていただきました。紙幅の制約ですべてを掲載できなかったことをお詫びします。ご了承ください。順不同でここに掲載させていただきます。有難うございました。

○私は 16 年生まれです。与謝野晶子さんの本は読んでましたが今のお話で又深く知ることが出来嬉しかったです。いつの時代も平和、平和が大切です。改めて今日のお話ほんとうにありがとうございました。人はやさしく、そして怖いものですね。今日は良い日でした！ S. 16. 2. 3 生。本当に身近に思われ、ありがたかったです○若い人がいない。工夫をして、九条の会に、講演会に、来るようにしなければ

ば。自衛隊は憲法違反である。軍隊そのものだ。平和は憲法九条を守ってこそはじめて成り立つ。国は戦争する、やりたい国にするのか、とんでもない話だ○伊東先生の体験的戦争観がよく伝わってきました。戦争は長い準備のもとに起こる！おそろしいです。準備を止めることをやらなければと心から思います。先日毎日新聞に出た短歌「日本でも起こりしことと大抵の人は思はずガザウクライナ」＊我が事としてして恐ろしいです。（＊毎日歌壇 4/28 付田中正和さん）○戦争知らない世代ですが大変参考になりました。ザポリージャ原発攻撃しない理由がよくわかりました（ウクライナ）。憲法 9 条が米軍から押しつけられた憲法というのが現政権です。これを倒さなければならないと思います○戦争の悲惨さは自分たちの生活の中に根強くはびこっているのだとあらためて思いました。父は中国からの帰還で私たちを育ててくれました。でも中国の生活も戦争の時代もなかなか語ってくれませんでした。もっともっと聞く事をしなければ、私の意識も成長していかないと感じ、まだまだ皆さんの話に接していこうと思います○最後のコーナーで「軟弱者」の CD の音楽が流されたのが良かったのですが、タイトルの変更の一考を希望致します。例として「優しき者」○伊東さんがお話された戦場から帰ったお兄さんのこと、とても深く心にのこりました。戦争 PTSD ですね。近頃やっとここに光が当てられるようになってきました。そういう意味でも“戦後処理”は全く終わっていません。被団協のノーベル平和賞も遅すぎる感もあります。「憲法 9 条を世界遺産に」「憲法 9 条にノーベル平和賞を」本当にそうですね。微力ではありますが平和構築の一翼を担えるよう努力します○いわき市山代吉宗さんの人生、9 条の重要性、9 条を守り通すこと。伊東先生のお兄様との思い出。詩の朗読、この詩の訴える反戦。戦争に向っている現在の恐ろしさ○治安維持法でいわき市の人も逮捕された人がいる事を知り、社会主義運動が都会だけでなく全国に広まっていたんだなと思いました。防衛についても、新聞記事に注目したいと思いました。戦争、九条について考えさせられ、とても勉強になりました。ありがとうございました○君死にたまふことなかれの朗読にジーンと目頭が熱く感じてしまいました。（吉岡玲子さん）戦争は絶対に許してはなりません○①与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」NHK で数十年前に放送された「おしん」で放映された。初めて感動した②また、伊東先生の長兄様の帰省され PTSD でご家族様の苦しみを聞き、戦争のおそろしさを再確認した。③これからどのように反戦平和活動に参加していけば良いのか？○久しぶりに先生におあいできてうれしいです。お話の内容、いたく感動しました。軟弱者、おもわず涙があふれました。私はおはなしをたのしみにしてましたが式が長すぎると思う○伊東先生のお話は良かったです。日

頃考えている事を再認識させていただきました。質問の時、80歳の女性が切々と「これから私達は どうしたらいいのか」と問われた時、先生は「もう答は出ているでしょう」と言っておられましたね。もっと具体的に、その思いに応えられたらと、残念に思いました○与謝野晶子のこともう少し知りたいと思いました。戦争体験した父親から戦争の話は聞いたことありませんでした。今、戦争反対の運動している娘のこと、どう思っているか知りたくなりましたが無理なので、悲かな思いは誰にもさせたくありません○平和に平和にすごしたいと思っているのに、戦争へとすすんで行きそうな世界の流れ、国の流れがこわいです。もっと九条の大切さを大事にしたいですね。でも、九条に反対する意見が大手をふっていますよね○昔、与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」を暗記したことがとてもなつかしかった。私には弟が4人いたので絶対戦争はいやだという気持ちもあって、無中で暗記したものでした○海軍省の役員だった父が敗戦の日に話した言葉を思い出しました。「お父さんは無事に生きて帰れたけれど、ジャングルにはたくさんの労働者が残されているんだよ。」と。私(14才)は「その人たちにも家族が居ただろうに、かわいそうに」と言ったらビンタをはられ、桑畑に投げとばされた。次の年、父はマラリアを発症して亡くなりましたけれど○原発の実相。おわりの兄弟の実相。与謝野晶子の実相(?)○戦争を知らない世代の私ですが、やはりこれからも戦争をしては人のためにも世の中のためにもならない、という事を今の学生やもっと小さな子供達にも伝えなければならないと思いました。優しく強く教えようと感じました○「軟弱者」平和を守るための覚悟。やなせたかしの正義は、自らも傷つくものだという覚悟、アンパンマンの。軍隊は国民を守らない。私の母(T.13生)は「日本は戦争に負けて良かった。そうでなかったら、軍人のいばりちらす国になってただろう」と。私の父(T.9生)は「国というものは戦争やるものだと思ってた」と言っていました。80年間戦争しなかったことは大したものなんだということを私たちはもっと強く誇っていい○あらためて戦前このいわき市に平和のため命をかけて闘った人がいたということ、学校でも子どもたちに知らせしてほしい。平和とは何かということ、○与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」の詩の朗読に感銘しました。以前視覚から受けた思いとはまた違う感情でした。絶対に戦争があってはならないのに……ウクライナ、イスラエル何とかしてほしい○戦争は絶対にしてはいけない!!と力をこめる先生の気持ちが伝わるすばらしい講演でした。「次のノーベル平和賞は憲法九条」?!九条を守る会を発展させているなこその皆様こそすばらしいと思いました。(以上)

訂正とお詫び 前号 (No.74) の「リレートーク」に編集、製販の過程でいくつかの誤記、誤植がありました。ここに著者と読者にお詫びし、誤りを正して再掲します。(誤りを訂正した個所は下線を付しました。)

リレートーク

防空壕のことなど

矢内あけみ

戦後生まれだが、防空壕の跡らしきものはよく見かけた。

通っていた湯本一小の山の裾が崖になっていて、その前は校舎の敷地よりも一段高くなった平地で、ゴミの焼却炉があった。崖の裾に何やら洞穴めいた穴があいていた。

誰に教えられるともなく、防空壕の跡なんだということは、みな知っていた。

この崖の突っ先が、校舎から講堂に行く渡り廊下に接近していて、大人の頭ぐらいの高さに、横に切り込んだような細い穴があいていた。これは先の防空壕に続いているんだという話があって、好奇心をそそられはしたが、焼却炉の側の入口はゴミが盛り上がっていて、入る気にはならなかった。

たった一度だけ、崖の突っ先の横穴から、坊主頭の子が這い出して来たのを見たことがあって、ああ、やっぱり中がつながっているんだ、と思った。

育った家の近くでも山の横っ腹に穴があって、これも防空壕の跡だと、これは周りの大人に聞いたのだと思う。やっぱり穴の入口がゴミで盛り上がっていた。

父親の実家の藤原へ行く途中、白鳥の入口にも道の脇の崖の裾に横穴が二つあって、片方は道具置き場、片方は車の置き場になっていた。ごく最近まで活用されていた。

ここにはいわき市の「崖地につき危険・注意」(だったかなあ)といった看板が、ずっと立っていた。一昨年、藤原川があちこちであふれて、私の親戚も被災した。

そのせいかどうか、白鳥入り口の崖の補修の工事が始まり、防空壕は消滅した。なんとなく残念。

母の育った家は湯本の駅の前の、御幸山という山の陰になる。戦争中、祖母も防空壕をつくる必要に迫られたが、祖父は亡くなっていて、母の弟の長男はまだ十代半ば、男手がない。何とか、知り合いの人に頼んで、作ってもらった。

出来上がると祖母はせっせと穴の中に米やら味噌やらを詰め込んで、穴がほとんど一杯になってしまった。長男の叔父が「これでは人が入れない」と文句を言うと、「食うものがなくてはしょうがない」と、祖母は言ったそうだ。

実際に警報が鳴ったときのことである。私の母が、まだ赤ん坊の私の兄を抱いて防空壕に入ると、赤ん坊が怯えて火のついたように泣く。祖母が「泣くんでねえ。飛行機に聞こえる」と言ったそうだ。

また、別の時だか、警報で灯りを全部消さなければならないのに、近くの旅館の人が、何を血迷ったか、逆にペアッと点けてしまった。隣組の人が、「何やってんだ！」と怒鳴ったそうである。飛行機にめつけられなくて良かった。

湯本の町では、駅前で機銃掃射がやられて、直接ではないが、そのショックで、死んだ人がいると聞いた。

母の上の弟は平の商業学校に通っていたが、勤労働員で、日立の軍需工場に行かされた。日立が艦砲射撃にあったとき、その爆音、衝撃は湯本の家にも伝わって、戸にはめたガラスがビリビリ、ビリビリと震えたそうだ。

次の日叔父がゲッソリした顔で帰ってくると、祖母が「ダイジョウブか、どんなだったんだ」

と、何度も聞く。叔父は

「うつつあし、どんなだったなんて聞くな」

と怒鳴って、布団かぶって寝てしまったそうだ。

あとで、末の叔母の話では、体が吹っ飛ばされて、松の枝に引っかかったちぎれた肉片などを片付けさせられたそうだ。ちょっとした差で、叔父も命拾いをしたわけで、とても母親に聞かれたからといって、気楽に話せるものではなかったろう。

そうして、母親というものは、ナンダカンダと根堀り葉堀り聞きたがるものではある。

祖母から聞いた話である。

食べ物の足しにと、家の脇の土手にカボチャを植えておいた。そろそろ食べ頃だと思っていたら、そのころ、湯本一小は兵舎になっていて、その兵隊さんがきて祖母に

「おばさん、そのカボチャもらえっけ」

というわけで、全部持って行ってしまった。

私が

「代金ぐらい払ってくれたのけ」と言ったら、祖母は

「ナニ、くれるもんか」

と吐き出した。兵隊さん相手に、代金など、請求できない。しかし、貧乏な祖母の一家にとっては、大きな食べ物であった。金も払わずに持っていくというのは、どうなんだと、腹が立ったものである。

この叔父には 8 月 15 日過ぎてから召集令状がきた。祖母はどうしたもんかと思ったが、仕方がない。支度して湯本の駅まで行ったら、駅長さんが

「もう、戦争終わったんだから、いいんだ」

と言ってくれて、それで、ほっとして、行くのをやめた。それで、祖母は駅長さんのことを恩に着ていたさうである。

編集後記 講演会へのご協力に感謝

今年も成功裡に講演会を開くことができました。出席者は 143 名。通路に椅子を出すほどの盛況でした。整理券を事前に求められた方 89 名、当日の方 54 名でした。事前に求められた整理券は 154 名分でしたから 65 名分は実質的には協賛金（カンパ）という事になります。また、会場で活動カンパとして 34840 円をいただきました。こうしたご協力で今年もこの「勿来 9 条の会ニュース」を無償でお届けすることが出来ます。感想文も 37 名の方からいただき、励まされました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。（M）

勿来九条の会事務局

櫛田正行 65-6973

龍田光司 63-4762

宮川 正 63-4082